

## 1、総括表

## (1)項目別の達成状況

評価項目	達成状況	評価の理由
(1)学校経営の重点	A	様々な課題や困難があるなかでも、教職員が積極的に学校運営に参加し、一致団結して取り組んでいる。
(2)学習指導の重点	B	学力向上を学校の課題と位置づけ、全体として基礎学力定着に取り組み、指導力向上の研修に努めた。
(3)生活指導の重点	B	教職員の連携、保護者との連携、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図りながら、組織的に生活指導にあたった。
(4)保健管理・指導の重点	A	健康・美化に対する様々な継続的な取り組みにより、生徒の保健や美化の意識が高まっている
(5)進路指導・キャリア教育	A	3年間の計画通りに各学年で取り組み、生徒の進路や職業についての意識を高められた。
(6)特別支援教育	A	一人一人の指導計画と指導内容をその都度見直しながら、全体の共通理解のもと支援が進められて、効果をあげている。
(7)人権教育の重点	B	全員が人権教育を分担して進める体制をつくり、各学年で計画通りに取り組んだ。
(8)特別活動	B	生徒会活動を学校行事の中心にし、自主的な活動をすすめてきた。
(9)安全管理・指導の重点	A	各学期で全校対象の交通安全と防犯の学習を実施でき、自分の身を守る意識を向上させられた。
(10)道徳教育の重点	B	道徳教育を推進するため、学校全体で分担して取り組む組織体制をつくった。
(11)研修の重点	A	例年以上に授業力向上に関して研修・研鑽を積んだ。発達障害に対する指導に関しても年々共通理解が深まっている。
(12)施設・設備の整備・管理	A	計画通りに整備・管理できた。
(13)保護者・地域との連携	A	情報発信が十分にできている。小中連携についても従来より一歩進めることができた。

## (2)次年度への改善点

様々な課題に対して、教職員の取り組みが進んだ一方で、基礎学力・基本的な生活習慣・人権意識などについて、生徒の意識向上や改善がまだ十分でない。より一層、生徒の実態把握と課題の焦点化に努め、効果的な指導を粘り強く推進していかなければならない。

## 2、項目別評価

### (1)学校経営の重点

目標	人間尊重の教育を基盤とし、仲間と共に生きる豊かな心と自ら学ぶ意欲を育て、「生きる力」を育む教育活動を推進する。	達成状況	
指標	①心身の健康の保持増進に努めるとともに、自己の良さに気づき、認め、高めていける生徒の育成を図る。	A	A
	②生徒の学力の実態を適確に把握し、生徒との信頼関係を築くなかで、指導体制の改善、「授業力」の向上に努め、学力の向上を図る。	A	
	③自主性と連帯感をもつ集団の育成に努めるとともに、互いが良好な関係を構築できる生徒の育成を図る。	B	

#### 【現状と分析】

- ・健康教育部、保健体育科、人権部会性教育部会を中心に健康への意識の向上と自尊感情を育むことに努めた。また、部活動を通じ、心身の健康の向上に努めるとともに、集団での自己の大切さに気づかせるよう努めた。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、生徒の学力向上に向けての課題を明らかにし、学期毎の読書活動等の取り組みを進展させた。
- ・年間指導時数の確保、授業力の向上、TT、習熟度別授業など個に応じたきめ細かな指導体制の確立等を目指し、新指導要領移行についての共通理解を図った。学力向上委員会を組織し、授業公開（相互研修）週間を設定と研究授業の実施により、指導法の工夫、改善に努めた。
- ・自他の人権を尊重する心を育むため、教職員の共通理解を図り、いじめや生徒の問題行動に対し生活指導部、人権部会、個別支援委員会を中心に、あらゆる機会を通して、人権の大切さを訴えた。

#### 【次年度への改善点】

- ・全国学力・学習状況調査、体力・運動状況調査や中教研の学力診断、教職員アンケート等からは授業改善に向けた取り組みの成果が見られるが、生徒アンケートでは、授業が分かりやすいと答える生徒が3年連続増加しているものの、まだ僅かに5割を切っているため、生徒の実態をより深く分析したり、公開授業等の授業研究を通して、より、一層の授業法の改善を行っていく必要がある。
- ・個別に支援が必要な生徒に対し、学校全体で取り組む体制が確立されてきたが、よりすすめていくと共に関係諸機関との連携を一層密にしていく必要がある。

### (2)学習指導の重点

目標	基礎基本の学習事項を明確にし、その定着を図る指導を徹底する。	達成状況	
指標	①基礎学力の定着・向上に向けて、学校全体の課題として共通理解を図り、教科・学年・全校で足並みをそろえて取り組む。	A	B
	②教材や指導法について自己・相互に研修し、「わかる・楽しい」授業の創造・実践に努める。	B	

#### 【現状と分析】

学力向上プランをもとに学力向上を学校全体の課題として、教職員の意識を深めて取り組んだことから、(1)各教科で基礎基本の定着に積極的に取り組んだ。(2)夏期休業中の学力補充や3年生対象のサポートタイム等、学年や学校全体で取り組んだ。(3)1学期の相互参観週間・2年次研修・初任者研修・小学校出前授業等を通じて、以前にはない回数で授業研究と研修を実施した。教職員アンケートの結果からも、学習指導に関して意思一致して取り組み、授業力向上に向けて研鑽を深めることができたことが読み取れる。一方で生徒アンケートでは、生徒自身が「授業がわかる」と答えた割合が昨年よりも増えたが、依然50%を切っている。習熟度別授業や家庭学習指導に関しても、昨年度より意識して進められた。

#### 【次年度への改善点】

「わかる」生徒を増やすために、(1)その授業の中で達成感が得られるような授業展開の工夫や、(2)生徒の「やる気」スイッチを入れるため、具体的に点数に繋がる取り組みなどを、さらに学校全体・学年・教科で進めていかなければならない。

### (3)生活指導の重点

目標	全教職員相互の連携を密にし、共通理解のもとで基本的な生活習慣の確立に努める。	達成状況	
指標	①教育相談を実施してひとりひとりの生徒理解につとめ、個別支援委員会で共通理解をはかりながら指導する。	B	B
	②登校指導により基本的な生活習慣の向上をはかる。	B	

#### 【現状と分析】

- ・職員会議や職員集会ごとに生徒の現状や指導経過を報告し、全教職員で生活指導に当たるように日々努めた。
- ・教育相談やカウンセリングルーム、保健室の活用を通じて生徒理解、問題傾向の把握に努めた。
- ・不登校生徒への対応についても個別支援委員会を職員会議後に全員参加の形で持ち、共通理解を深めた。

#### 【次年度への改善点】

学校・地域・家庭が同じ視点に立って話しあう機会を増やし、相互協力体制と連携を強める。教師間の共通理解を深めるため、今後も報告・連絡・相談を密におこなうよう努める

### (4)保健管理・指導の重点

目標	健康で安全な生活および環境美化の意識を育てる。	達成状況	
指標	①健康・安全に関する学習や訓練、定期健康診断、日々の相談活動を通して自己管理能力向上のための取り組みを実践する。	A	A
	②清掃活動の充実を図り、緑化活動に協力していく。	A	

#### 【現状と分析】

- ・2・3年で救急救命講習を実施した。
- ・学期末懇談会で定期健康診断の結果のお知らせをし、受診勧告をおこなった。
- ・壁面緑化や教室のポトスへの水やりを美化委員会の生徒たちがおこなった。
- ・保健室に空気を消毒する装置を取り付け、病気の感染予防に努めた。
- ・部活と連携した校内清掃活動により清掃場所の拡大を図ることができた。

#### 【次年度への改善点】

- ・校内清掃活動及び緑化活動への継続指導をおこなう。
- ・学校内の設備を大切に扱うことへの啓発活動をおこなう。

### (5)進路指導・キャリア教育

目標	生徒それぞれが自らの将来の生き方を考え、卒業後の進路を主体的に選択できるよう、組織的・計画的な指導をすすめる。	達成状況	
指標	①組織的な進路指導体制を整備し、生徒・保護者に適切な情報を提供する。	A	A
	②適切な職業観や勤労観を育成するための3年間を通じた系統的・計画的な指導をおこなう。	A	

#### 【現状と分析】

年度当初、各学年で進路・キャリア学習について、年間計画を立て、概ね実施することができた。めまぐるしく進路の情勢が変わる中で、進路学習用に作成した教材や進路通信を用いて、最新の情報を提供した。

#### 【次年度への改善点】

今年度は発足したところなので、各学年での取り組みに終わったが、3年間を通じた計画をすすめるために、それぞれの取り組みの内容を整理・検討していく。

## (6)特別支援教育

目標	障害のある生徒の自立や社会参加に向けて、生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、必要な支援を行う	達成状況	
指標	①校内研修等を通して、教職員の意識啓発や指導力の向上を図り、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育推進委員会で、組織的、計画的に支援に取り組む。	A	A
	②特別支援学級と普通学級の生徒との交流及び共同学習を推進し、相互に理解・支援する姿勢を育む。	A	

### 【現状と分析】

- ・ 毎月の特別支援推進委員会で①個別の指導計画、教育支援計画を作成、②全体の共通理解、③担当者・教育活動支援員の支援の仕方を検討・助言、④保護者との連携ができ、生徒の状況の変化にほぼ対応できた。
- ・ 発達障害支援体制モデル研究実施校となり、生徒一人一人の状況分析や外部講師による教職員向けの学習会を行い、指導力向上を図った。また生徒向けの学習会や交流及び共同学習を行った。

### 【次年度への改善点】

- ・ 保護者への啓発活動を推進し、家庭との連携を密にして生徒に対応する体制を確立する。
- ・ 生徒の状況の変化により臨機応変に対応できる体制を構築する。

## (7)人権教育

目標	人間尊重の精神を基盤にして、自他を認め合う集団を育成する。	達成状況	
指標	①人権学習を中心に豊かな人権感覚を醸成し、互いのちがいを理解しあい尊重する精神を育成する。	B	B
	②韓国・朝鮮に民族的ルーツを持つ生徒の民族や文化に対する自覚と誇りを育む。	B	

### 【現状と分析】

- ・ 人権部会がテーマを分担し、3年間を見通した年間計画を立て、相互に情報交換しながら、各学年に応じた実践をした。しかし教職員アンケートでは「だれもが指導しやすく生徒の人権意識を高めている」という項目が低調である。保護者アンケートでも「いじめのない学校づくり」を高く評価しているとは言えない。
- ・ 朝鮮文化研究部の活動を通して、民族講師と連携しながら民族的ルーツを持つ生徒の自覚と誇りを育むように努めた。活動内容を工夫したが、子どもたちの参加が定着しなかった。

### 【次年度への改善点】

- ・ 道徳・学活・総合の時間を有効に使いさらに計画的・体系的に取り組む。
- ・ 教材・指導案をストックし、だれでも指導できる人権教育をすすめる。
- ・ 本校における身近な人権課題を積極的に取り上げ、生徒の人権意識を高める必要がある。
- ・ 朝鮮文化研究部に参加しやすい環境をどう整えるか検討する必要がある。

## (8)特別活動

目標	生徒会・学年・学級の活動を充実させる。	達成状況	
指標	①学年・学級活動の活性化に努める。	B	B
	②生徒会執行部・各委員会活動の内容を充実し、徹底を図る。	A	

### 【現状と分析】

生徒会執行部では学校行事の中心として意欲的に活動し、日々のあいさつ運動など自主的な活動にも取り組んできた。また毎月発行している「生徒会だより」に各委員会の目標をのせて生徒会活動の活性化を進めてきた。大部分の生徒は決められた仕事をきっちり果たしている。

### 【次年度への改善点】

生徒会執行部を中心に前向きに活動できるようになってきたので、これを次年度の活性化につなげていきたい

### (9)安全管理・指導の重点

目標	全教職員が共通理解し、安全管理・指導に努める。	達成状況	
指標	①生徒の安全対応能力の向上に向けた学習を実施する。	A	A
	②生徒の安全に対する教職員の意識の向上に努める。	A	

#### 【現状と分析】

1 学期終業式に全校生徒に対して自転車交通安全教育をおこなった。12月に全学年で薬物乱用防止教室を実施した。2月には携帯電話の使用に関する「ケータイ安全教室」を実施した。

#### 【次年度への改善点】

防犯教室を継続して実施していく

### (10)道徳教育

目標	すべての教育活動を通して、社会のなかで自他を尊重し、主体的に自己実現を図り、自分の責任をはたす道徳性を養う。	達成状況	
指標	①「道徳の時間」を道徳教育の要と位置付け、計画的に実践する。	B	B
	②本校の実情に応じた道徳教育の教材を整備する	B	

#### 【現状と分析】

- ・道徳教育の年間計画を作成し、人権教育、キャリア教育、健康教育、安全教育、特別活動や学校行事、各教科などすべての教育活動とリンクしながら推進していく体制はできた。
- ・人権部会や行事部会、部、委員会で教材を整備し、系統立てて実践する準備を進めている。

#### 【次年度への改善点】

年間計画と体制が絵に描いた餅にならないよう、それぞれの部・会・教科が道徳教育の一端を担っていることを意識しながら、計画的に実践していく

### (11)研修の重点

目標	教職員全体の共通理解とスキルアップを図る。	達成状況	
指標	①生活指導や教科指導の充実をめざし、全教職員の共通理解を深め、スキルアップを図る研修を積極的に実施する。	A	A
	②人権教育について研修を実施し共通理解を深める。	B	

#### 【現状と分析】

- ・4月に生活指導に関する共通理解を深めるため、生活指導協議会を実施した。
- ・発達障害に対する認識や支援方法について、外部講師による研修会を持った。職員会議を活用してひまわり学級在籍生徒や発達障害に対する共通理解を図り効果をあげている。
- ・授業力向上に向けて、相互授業参観と評価カードによる相互研修を行った。また新任教員・二年度教員の研究授業を実施し、多くの教職員が参観と研究協議に参加した。

#### 【次年度への改善点】

- ・特別支援教育に関して、心理検査等も活用し、生徒の発達状況を見極めつつ、生活指導部との連携を更に進めていく必要がある。
- ・授業研究に関しては、さらに研修や共通理解が深められるよう、研究協議の方法を工夫する必要がある。

(12)施設・設備の整備・管理

目標	生徒の教育環境の向上をはかる。	達成状況	
指標	①定期的に各教室等の状態を目視確認する。	A	A
	②樹木剪定、下草除去を計画的に実施する。	A	

【現状と分析】

目標通り整備・管理をおこなうことができた。

【次年度への改善点】

生徒の教育環境向上のため各分掌と連携して、長期的な視点にたった整備計画を立てる必要がある。

(13)保護者・地域との連携

目標	保護者・地域・校区小学校との連携を図り、学校の歴史・伝統や地域性を生かし、地域に開かれた学校づくりを推進する。	達成状況	
指標	①学校だより・ホームページ等で、学校の様子を公開・発信する。地域懇談会・三校生指協議会・学校評議員会・学校関係者評価委員会等で保護者・地域の意見を聞き、学校改善に活かす	A	A
	②児童・生徒の学習面・生活面での小中連携を密にする。児童が安心して中学校に進学できるように小学生体験授業や小学校への授業サポートを進める。	A	

【現状と分析】

- ・教育目標、内容をピロティに掲示し、ホームページで公開している。
- ・学校だより、PTA新聞を毎月発行し、学校の様子を公開した。
- ・文化祭や職場体験活動で、保護者や協力事業所にアンケート等を実施し、意見を聞く機会を設けた。
- ・小学校保護者向けに授業を公開している。また、校区小学校の全6年生に各4教科の出前授業や中学校での学校紹介・部活紹介を実施し小中連携を進めた。
- ・地域ふれあい祭り等の地域行事に生徒・保護者・教職員で参画した。

【次年度への改善点】

生徒の生活指導面の諸課題について、地域・保護者との意思疎通・連携を更に進めていく必要がある。